

登録コード	SD419300	開講年度	2026					
授業題目	地球学コロキウム					担当教員	吉田 孝紀 他	
英文授業名	Colloquium					副担当	常盤 哲也	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限		対象学年	3年
講義室	理学部第8講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	必修
信大コンピテンシー 該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ							
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の各分野における専門知識					地球学についての幅広い専門知識を修得する。		
	【2023年度以降カリキュラム対象】専門知識や観察・実験などによって問題を理解・解決し、その成果を的確に他者に伝える力					専門知識を用いて、社会的課題の理解と解決方法を学び、わかりやすく伝えることができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	前半では、与えられたテーマに基づいて、数人ずつのグループで共同学習を行い、その成果をクラスの他の班員にわかるように口頭発表し、全体で質疑・応答を行う。発表者は聴衆の理解を促すような発表と準備につとめる必要がある。質問を受けた際には、質問者の意図を読み取り、適切な回答をすることが求められる。質問者は発表者の用意したレジメをあらかじめ読み、要点や疑問点の把握に努め、適切な質問を行うよう努力する。 後半では、企業技術者（外部講師）の協力の下に、応用地質学に関する基礎的学習を行う。その上で、地質科学や地域防災の課題に関して数人ずつのグループで課題を解決するための共同学習を行い、その成果をクラスの他の班員にわかるように口頭発表して、全体で議論する。これを次の3段階に分けておこなう。第1段階は、地球学に関わる学際的な知識を習得した上での、応用地質学や防災上の基礎的学習、第2段階として問題を含んだ場所を題材とした演習、第3段階は社会と地質科学の関係でどのような問題があるのかについて議論する。適切な地域があれば、発見した問題に解決をあたえる為の現地調査を行い、発表する。							
(5)授業のキーワード	環境実践力、コミュニケーション能力、斜面災害、ハザードマップ							
(6)授業計画	前半では、科学雑誌から「環境」「温暖化」「惑星科学」「進化」などの学際的なテーマを取り上げ、その地球科学的な緒作用について調査し発表する。 後半では、現場で仕事をしている技術者の説明を受け、直面する問題への方策について学ぶ。その後、グループごとに環境・災害問題に関連する課題を自ら設定して、その地質科学との関連を調査し、問題解決のための方策をデザインして発表することとする。この中で授業アンケートを実施する。さらに年度末の卒業研究発表会にも参加する。							
(7)成績評価の方法	発表回数、質問などの討議への参加の状況、提出されたレポートの内容などから評価する。							
(8)成績評価の基準	講義・発表への参加（質問を含む）50%と、レポート50%で評価する。90%以上の評価点をS、80%以上の評価点をA、70%以上をB、60%以上をC、それ以下をDとする。							
(9)事前事後学習の内容	講義中に指示する。							
(10)履修上の注意	・ 学外講師の都合によっては、授業計画の変更があり得る。 ・ 講義内で落石や斜面崩壊のシミュレーションを行う際には、Windows PCが必要である。 ・ 他人の発表、書かれた情報 - とりわけインターネット上の情報 - には、誤りも多い。その限界を十分承知して情報を収集すること。 ・ 年度末に行われる卒論発表会には必ず参加すること、							
(11)質問、相談への対応	オフィスアワーは月曜日の午後1～3時、理学部C棟の吉田研究室へ。 メールでの質問も受け付ける（kxyoshid@shinshu-u.ac.jp）。							
【教科書】	特になし							
【参考書】	藤田崇編著「地すべりと地質学」古今書院							